

みんなの“人権”が尊重される
『まちづくり』への《懸け橋》

No. 71

発行：
人権啓発指導員
【大楠 茂美】

人権の花(=ひまわり)の話や、平和を考えるDVD「つるにのって」を
観ながら、みんなでかけがえのない生命(いのち)について考えました…。



まだがくどうほいくしよ
馬田学童保育所のみなさん

朝倉地区人権啓発情報センター 人権啓発指導員 ひまわりおじさん ①

9月に入り早くも中旬…。まだ
残暑厳しい折、突然の大雨や竜
巻等の、被災からの早急な復旧
復興を、心から願っております。
くれぐれも、健康や安全等に
十分気を付けられますように…!!

この夏休み、初めて馬田学童
保育所で、大きく育ったひまわりの
成長を振り返りながら、人権や

平和について、子どもさんたちと一緒に学習する機会をいただきました…

馬田学童保育所の窓から、馬田
小の3年生が、みんなで育てている
ひまわりが、よく見えました!!
大人の背丈よりも高く、笑顔、い
っぱいの大きな花が…!!



小さな…
ひまわりの
たねには、
大きな花を
咲かせる生命(いのち)が、蓄(たくわ)えられていました。

たねをまけば花が咲き、実のる…って、
当たり前、の出来事なのではないか？

そこには、次の世代に生命を繋いで
いくために備わった、実に不思議で、深遠な仕組(しく)みがある…!!
誰もが一人一人、先人から繋がってきた生命を、今、託されて
いる、かけがえのない生命…!! ➡ 今を生きる私たちは、
先人の生命の繋がりの上に、生かされている存在なのでは…。



窓の外に広がるひまわり畑を見ていると、笑顔、いっぱいのひまわりの花が、
話しかけてくる…ようでした。とっても幸せな時間、…ありがとうございました!!



その後(あと)で、平和について考える一つのきっかけに…と、DVD「つるにのって(約27分間)」を上映しました。

これは、小学6年生のとも子さんが、夏休みのある日に、広島原爆資料館を一人で訪れた時、平和公園で不思議なサダ子さん(「原爆の子の像」から抜け出してきた少女)と出会います。そして、この少女サダ子さんの案内で、平和な世界へ向かって…、不思議な冒険が始まっていくというお話です。

◆ 佐々木貞子さんは2歳の時、爆心地から北へ約2kmの所で被爆。…明るく朗らかで人一倍スポーツ好きだった貞子さんは、小6年の三学期が始まって間もなく病気を発症し、9か月に及ぶ闘病の後…

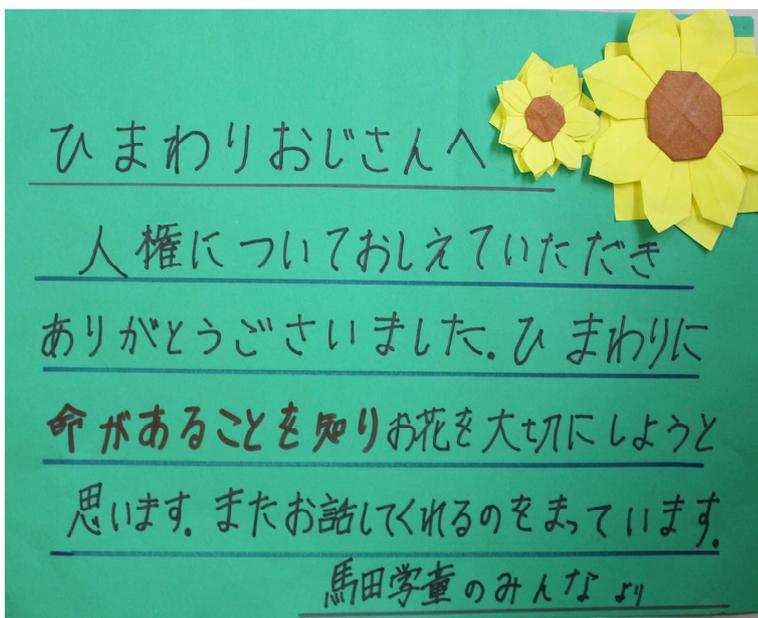
貞子さんは、同級生から「鶴を千羽折ったら必ず病気が治る」という励ましの手紙をもらい、全快する日を夢見て一生懸命に鶴を折り続けましたが、1955年10月25日(中学1年生の時)、息を引き取りました。…

クラスの仲間たちが、広島市内の小・中・高校等の生徒会に呼びかけ、子どもたちの手で、「原爆の子の像」を作ろうという運動が全国から世界へと広がり、3年後の5月5日(こどもの日)、この像(右側の写真)が完成して、除幕式が行われたそうです…。



世界の平和を願う子どもたちの心に乗せた「つるよ、世界へ翔(と)べ!!…という「想いや願い」が込められたDVDでした。

…音量の関係でアニメの声が聞き取りにくく、説明を入れながらの上映になり、申し訳なかったのですが、このあと、子どもさんから、折り紙で作られたひまわりの花が飾られた、心のこもったお手紙が届きました。…ありがとうございました!!



ひまわりの生命(いのち)も、私たちの生命も…みんな、他に代わることなどできない…かけがえのない生命なんだという視点から、改めて見直してみることは、同和問題をはじめ様々な人権問題解決に向けた「当たり前(⇒有難し)」ではない、大きな一歩になるのでは…。

人権が大切にされる社会を次の世代に繋いでいくことは、今を生きる、私たち一人一人の「使命」ではないでしょうか…。